

## 第7章 活用

### オ ガイダンス施設の配置

- ・ 史跡指定地外において、飛鳥宮跡に関する情報発信、出土品等の展示、学びの支援、行催事の開催、交流促進の機能を持つガイダンス施設の配置を検討する。
- ・ 家族連れや児童生徒の遠足等を主な対象として、屋内で遊びながら学べる展示やアクティビティの開発を行うなど、「エデュテイメント」の展開を図る。
- ・ 飛鳥宮跡周辺の既存施設（現明日香村役場等）の再整備等により、遺跡と一体的に利用できる施設とすることを旨とする。
- ・ 考古学・歴史学をはじめとするさまざまな分野の最新の研究成果と活用の取組との相互作用を促進させる拠点とする。



写真 7-8 ガイダンス施設  
（平城宮いざない館）



写真 7-9 ガイダンス施設  
（平城宮いざない館）

### カ 最新の情報発信技術の活用

- ・ インターネット接続（フリーWi-Fi 等）環境を整え、デジタルサイネージ、スマートフォン等情報更新の容易な端末を活用して、多言語で新鮮な情報を提供する。
- ・ 提供するコンテンツとしては、飛鳥宮や周辺の寺社、陵墓、遺跡などの歴史文化資源の解説や案内、地下遺構の（発掘時の）状況、万葉古歌や記紀の紹介、およびそれらの解説等のほか、その場所でしかできないゲームや、歴史の問題を解きながら周遊するアプリ等を検討する。
- ・ 今後、実用化されるMR（複合現実）技術を活用して、往時の飛鳥宮の風景や人々の営みを再現し、遺構表示と映像を組み合わせることにより、飛鳥時代の宮廷生活を体感できるように工夫する。



写真 7-10 デジタルサイネージによる  
タッチパネル式モニター（京都国立美術館）



写真 7-11 展示物紹介アプリ  
（東京国立博物館）



写真 7-13 弥生時代の遺跡を再現したVR作品  
(国指定史跡神崎遺跡)

## ② 整備状況や知見の蓄積に対応した活用の取組み

- ・ 現地の整備状況に応じて活用範囲やその内容を変化させ、段階的に活用を図る。
- ・ 飛鳥宮跡はすべてが発掘調査されておらず、未だその全貌は不明瞭である。そのため、今後の調査により、現在想定されている宮殿の構造が変化する可能性も高いため、飛鳥宮跡の価値を次世代に継承し情報発信していくため、発掘に続く調査研究の知見の蓄積に伴い、必要に応じて柔軟にその活用の内容を進化させていく。
- ・ 遺構表示については、暫定的・仮設的なものから建物の復元まで、その場にふさわしい手法を適切に選択することで、柔軟に進化する活用を目指す。
- ・ 各種の活用の取組については、学術的な検証に基づくとともに、参加する地域住民や来訪者の評価や意見を聞いて、内容や方法を改良してより良いものとしていく仕組みを工夫する。

## (2) 飛鳥地域全体の活性化に活かす

### ① 地域住民や来訪者が快適に過ごせる空間づくり

#### ア 様々な主体が飛鳥宮跡の活用に参画できる体制の構築

・飛鳥宮跡活用の取組が、地域の住民の暮らしを快適にし、誇りをもって参画してもらえるものとなるよう努めるとともに、国、県、村、地域住民（団体）、周辺寺社、研究者、民間事業者等が協力して、飛鳥宮跡活用のための取組を推進する体制づくりを行い、地域全体でホスピタリティの向上に取り組む。

・整備前の状況でも実施可能な歴史ガイド付き草刈りイベントの開催や観光ガイド等の育成を通して、地域住民や来訪者が飛鳥宮跡を知り、その保存活用に関わる活動に参加する機会を提供する。

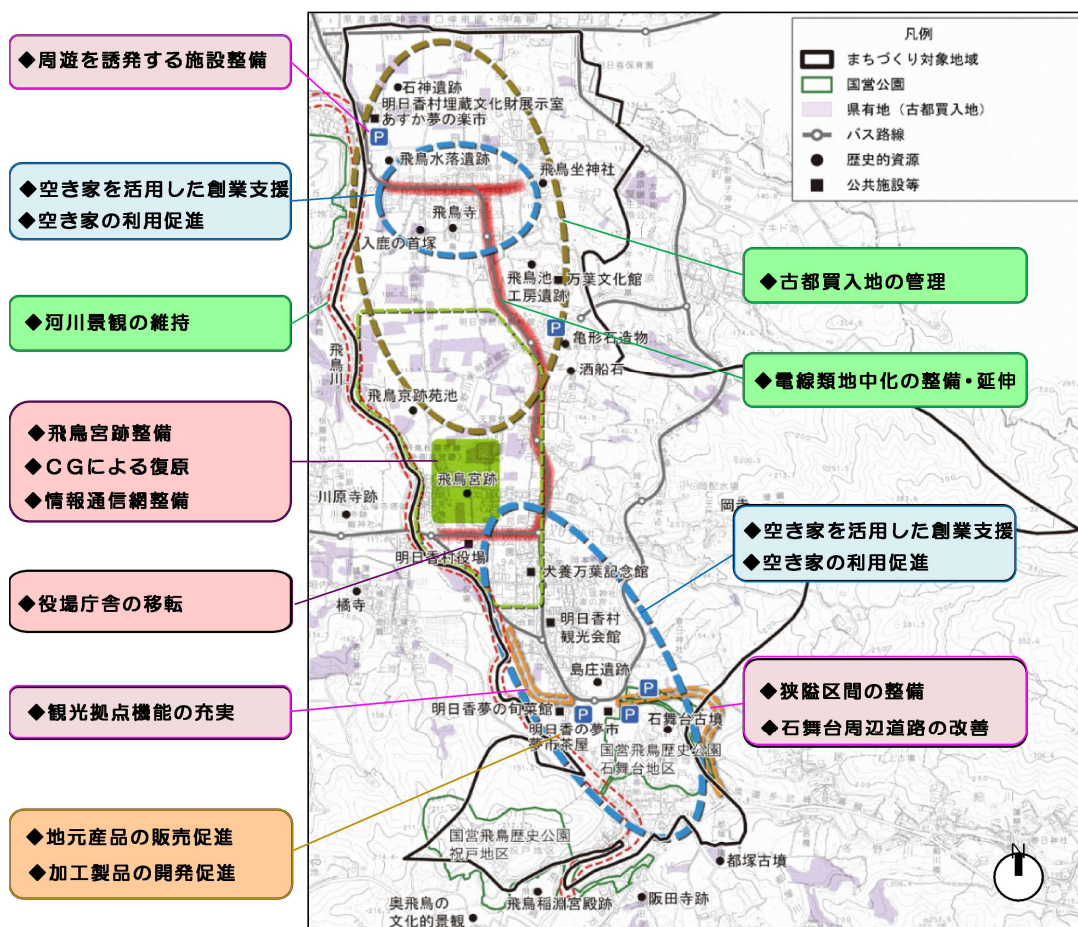


図 7-2 飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想図

#### イ 周辺地域と一体となった歴史を感じるまちづくりの推進

・「飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想」に基づき、周辺地域と一体となった「歴史を体感できるまちづくり」を推進する。

・飛鳥宮跡は明日香役場に隣接して存在する大きな空間であり、社会学習や観光を目的とした来訪者の利用だけでなく、日常の散策や休息といった地域住民の生活空間としての利用も想定される。安全に安心して過ごせる広場、休憩所や駐輪スペース、日常の健康づくりや災害時の避難にも使えるバリアフリー園路の配置等を検討する。



写真7-12 日常散策・休息  
(草津川跡地公園)



写真7-13 トイレ  
(飛鳥京跡苑池)

## ② 周辺の歴史文化資産等とのネットワークづくり

### ア 周辺施設と連携した周遊ルートづくり

- ・周辺の寺社、陵墓、遺跡などの歴史文化資源や、万葉文化館、飛鳥資料館等の既存展示施設等と連携し、これらの周遊ルートに飛鳥宮跡を拠点として位置づけ、地域全体としての魅力や情報発信力を高める。
- ・隣接する飛鳥京跡苑池については、歴史上の位置づけやつながりを持った一体的な史跡として、活用においても連携を図るとともに、動線の整備等により、相互の利便性の向上を図る。

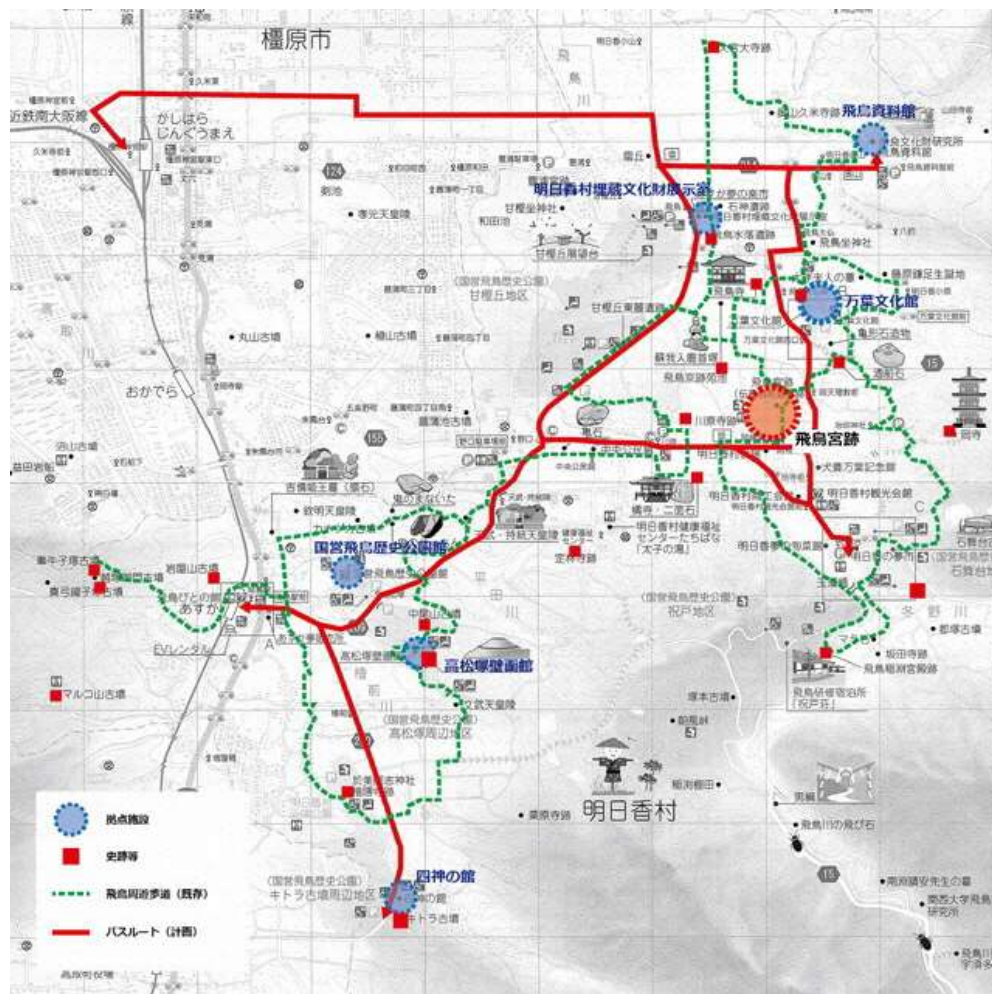


図 7-2 飛鳥宮跡周辺のネットワークのイメージ



図 7-3 飛鳥京跡苑池パース

#### イ 多様な移動手段に配慮した移動支援策の検討

・ルートとなる動線や統一的な案内サインの整備、情報提供システムの構築を図るとともに、徒歩や自転車、車やバスなど多様な移動手段に応じて、高齢者や障がい者に配慮した移動支援策を検討する。

### (3) 重要な観光資源として地域の魅力向上に貢献する

#### ① 多様な来訪者に対応したサービスの提供

##### ア 来訪動態に応じたコンテンツの提供

- ・史跡整備後、飛鳥宮跡の来訪者は以下のとおり様々なパターンが想定されるため、情報発信についても、来訪者の属性にあわせた対応が必要になると考えられる。新しい生活様式を踏まえた観光のあり方を模索しながら、管理運営体制づくりやコンテンツの作成を目指す。

##### [日本人の団体客]

修学旅行等学習を中心とした学生や児童を対象とした体験メニューや一定時間での解説コースと学習内容を設定する。飛鳥地方をめぐる旅客ツアー等の1拠点として解説すべき内容について、解説コースと内容を設定する。

##### [日本人の小グループ、または個人旅]

独自に飛鳥観光の一環として辿って来訪した興味のある人たちを対象に専門的な解説を含め、周囲の施設等も含めた解説内容とする。

##### [外国人の団体客（旅客ツアー等）]

飛鳥地方をめぐる旅客ツアー等の1拠点として多言語で解説すべき内容について、解説コースと解説内容を設定する。

##### [外国人の小グループ、または個人旅]

独自に飛鳥観光の一環として辿って来訪した興味のある人たちを対象に多言語で専門的な解説を含め、周囲の施設等も含めた解説内容とする。

##### イ 多様な来訪者に対応できるガイドの育成

- ・増加する海外からの来訪者や国内の観光客に対応するため、飛鳥の歴史を楽しくわかりやすく紹介するコンシェルジュや観光ガイド等の人材を確保する。

#### ② 時代の流れを旅の中で感じながら飛鳥宮跡を訪れる仕掛けづくり

##### ア 書籍、映画、テレビ、音楽業界とタイアップしたプロモーション活動の推進

- ・人々の娯楽として日常生活に根付いている各業界とタイアップした飛鳥のプロモーション活動を検討する。

例) テレビCM、旅番組、ラッピング列車、車内広告、ラジオウォーク、音楽プロモーションビデオなど



写真7-14 「飛鳥朱雀大使」に委嘱された里中満智子氏



ラッピング電車  
「あすか万葉トレイン」

(出典：明日香村 近鉄HP)

## 第7章 活用

### イ 観光客向け商品の開発

・関連する民間事業者等と連携して歴史に親しむツアー商品の開発や、おいしい食事、快適な宿泊、洒落たお土産の提供などに取り組む。



写真 7-15 外国人観光客への案内  
(国史跡高山陣屋)



写真 7-16 多言語対応の看板  
(熊本城)